



2005(平成17)年7月13日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★★

監督・脚本=ユン・ジェギョン/出演=チョン・ジュノ/チョン・ウンイン/チョン・ウンテク/オ・スンウン/ソン・ソンミン/パク・ジュンギョ (エスピーオー配給/2001年韓国映画/98分)

……ヤクザのボスも、ソウルの中心街 ^{ミョンドン} 明洞を仕切るためには、腕と度胸だけではなく知恵が必要。大ボスからそう言われた将来有望な若手ながら高校中退のボス、ドゥシクは、高校の卒業証書を獲得すべくある私立高校に編入。そこで巻きおこすさまざまな学園ドラマ(?)は超見モノ……。そして、「学歴社会韓国」の面白い縮図と私学経営をめぐるさまざまな社会矛盾が見えてくること請け合い……。

ホントにヤクザにも学歴が必要……？

日本も学歴社会だが、「ゆとり教育」がはびこる中(?)教育レベルや子供の学力は次第に低下してきたうえ、ひと昔前の「学歴絶対!」はもはや通用しなくなり、ある意味では実力本位の競争社会に移行している面もある。しかし、中国や韓国をみれば、日本以上の学歴社会であることは明らか。中国は人口が13億人もいるため、大学に入る人口自体が少ないうえ、共産党の幹部を中心とする上流階級と一般階級との格差が歴然としているため、その競争は上流階級の子弟をめぐるものとなっている。韓国はそもそも人口が約5000万人と日本の半分以下だが、中国と異なり、日本と同じように小学校から平等に教育を受けているため、高校から大学入学をめぐる競争はそりゃ激烈。しかも、大学卒業生を受け入れる企業や官庁も生き残りをかけたサバイバルゲームを展開しており、その激しさは日本をはるかに凌ぐため、「〇〇のためには、とにかく△△大学へ」という風潮が強くなり、よくも悪くも学歴社会となっていることは周知の事実。しかし、ヤクザはも

ととも知能の勝負ではなく、腕と度胸の勝負のはず……？ そうであるならば別に学歴など必要ないのでは……？ 私を含め、一般人はそう思うはずだが……？

ソウルの中心繁華街は明洞！

東京最大の繁華街は新宿か渋谷だが、ソウル最大の繁華街は何といても明洞。実在のヤクザ安藤昇を主人公として描いた『渋谷物語』（04年）を観てもわかるように（？）、ヤクザが「仕切る」のは繁華街と決まっている。それはなぜなら、繁華街にはヤクザの仕事の「うまみ」がすべて詰まっているから……？

主人公ドゥシク（チョン・ジュノ）は若手ながら武闘派（？）のボスとして、大ボスの信頼も厚い有望株。そして大ボスはこのドゥシクに明洞を仕切らせようとしていたが、大ボス配下の古株の幹部たちは、若手のドゥシクだけが重用されることに反発し、「ドゥシクは高校中退だから、競争社会の明洞では仕切るのはムリ」と大ボスに進言。この場面は、織田信長に重用されはじめた百姓あがりの木下藤吉郎が出世を続け、一国一城の主となったうえ、さらに大仕事をまかせるについて、信長配下の古参の武将である柴田勝家や丹羽長秀らが「藤吉郎ではムリだ」と進言しているようなもの……？ さてそこで大ボスは、どんな決断を……？

大ボスの命令にも一理ありだが……？

部下たちに自由に意見を述べさせたうえ、最終的決断を下すのが大ボスの役割。ここで大ボスがドゥシクに命じたのは、「きちんと高校を卒業してこい。明洞をお前に任せるのはその後だ」ということ。なるほど、その命令にも一理あり……？

大ボスの命令は絶対だから、ドゥシクはそのために髪型を変えたり、黒のスーツを高校生用のブレザーに着替えたりと大忙し。編入する高校の選択、服装の点検、教科書その他の購入等々の「実務」を担当するのは、ドゥシクの組のナンバー2である「自称大卒」のサンドゥ（チョン・ウンイン）。ナンバー3として一生懸命ドゥシクに尽くすテガリ（チョン・ウンテク）も控えているのだが、どうも彼は、いつもトンチンカンな行動ばかりで、ドゥシクをイライラさせる存在……。

一目ボレその1、2

ヤクザとしての腕と度胸は一流だが、ドゥシクもサンドゥも女にかけては意外とウブで真面目……？ 登校日の初日、ボスを送る黒塗りの車を途中で停車させたドゥシクは、始業時刻ギリギリになったため、かけ足で校門に向かう生徒たちと競争することに……。しかしドゥシクは隣を走っていた女の子ユンジュ（オ・スンウン）の落とし物に気づき、これを取りに戻ったため、結局初日から遅刻する羽目に。ところが、配属されたクラスで座った机の隣にはこのユンジュが……。そんなユンジュにドゥシクは早くも一目ボレ……？

1日目から遅刻して、正座させられたり、教師からどやされているドゥシクを遠くから見ていた単細胞のテガリはすぐに殴り込んでいこうとするが、冷静沈着なサンドゥは、これを制止。そのかわり(?)に、翌日には弁当を持参。そんな中で、サンドゥが偶然知り合うことになったのが英語教師のイ先生（ソン・ソンミ）。『木浦〈モッポ〉は港だ』（04年）では女検事役で登場していたこの超美人のイ先生にサンドゥも一目ボレ……？ 大卒のインテリヤクザ(?)サンドゥは、早速ごく自然に、イ先生を「お食事にも……」と誘ったが……？

日韓教師比較

戦後60年の日本で大きく様変わりしたことの1つが、教師の権威の低下と「荒れた学校」の登場。「先生でもしよつか、先生しかできない」という実に惨めな「でもしか先生」という言葉が流行ったが、そんな流れの中、今や学校には「金八先生」のような熱血教師はどこにも存在しない。それと同時に、教師が生徒の頭を叩くなどということは絶対にありえないコトに……。今では、そんなことをしたら大問題となり、即クビになることは明らか。ところが韓国では……？ この映画を観ていると、いとも簡単に教師が生徒の頭を叩いているのにビックリ……？

今や「荒れた学校」では、「教師の権威」などどこにも存在しない。私語をしようが、携帯でメールを打つていようが、さらには弁当を食べていても、これを注意したらかえってヤバイことに……。そうなる则教師は、ただ決まった授業を形式的に流すだけ……。ところが韓国では……？

父母を尊び、教師や先輩を敬う儒教思想が強く残っている韓国では、今なお教師は尊敬すべき対象……？ ドゥシクやユンジュ担当の熱血教師チョ先生（パ

ク・ジュンギユ)が不良生徒から暴力を受けるや、俄然ドゥシクは立ち上がって「教師に向かって何を言うか! 何をするか!」と反撃……。日本では、こんな言葉や行動はまずお目にかかれないもの……?

私立校の矛盾も韓国流に徹底……?

国公立高校に比べて私立校は、学校設立者などの「理事」の力が強いのは当然。そして私立校には否応なく「経営」という宿命があるため、教育よりも儲けを考える「理事」がいてもおかしくない。そして、どうもそれは日本も韓国も同じようだ。しかしこの映画を観ていると……? 韓国は何でも日本より徹底している感が強いが、それはこの私立校の矛盾という点でも同じ……? ドゥシクやユンジュのクラスにいる3人組の不良女子高生のリーダーは、この私立校の理事長の娘。彼女はそれをハナにかけて、勉強はしないわ、態度は悪いわ、さらには卒業の単位をよこせと要求するわ、と好き放題。これにキレた(?) チョ先生が彼女に手を出すと、たちまちその母親が学校に乗り込んできて大騒動。

この私立校の校長先生は、こんな理事長のご機嫌取りをしながら私腹を肥やしていたから、たちまちこのチョ先生にはクビの宣告が……。さらに美人のイ先生も校長のセクハラまがい(そのもの?)の行為を敢然と拒否すると、「教師の代わりなんていくらでもいるんだよ……」と言い放たれたうえ、彼女もクビ……? 何ともこの私立校の矛盾は大きく、底の深いものだった……。

主人公の堪忍袋は……?

学校内の矛盾が大きくなるにつれて生徒たちも立ち上がり、校長らに対して公然と抗議行動を開始した。いわば、学園紛争の勃発だ。ところがドゥシクは……? ドゥシクが大ボスから命令されていたことは、無事高校の卒業証書ももらうこと。そのためには、ここで問題を起こせばヤバイことは明らか……。そのためドゥシクは、同級生たちから「意気地なし!」「見損なった!」との罵声を受けながらも、ここはじっと我慢を決めこんだが……? 果たして、その忍耐はいつまで続くのか? そして、ドゥシクの堪忍袋の緒はいつ切れるのだろうか……?

2005(平成17)年7月16日記